

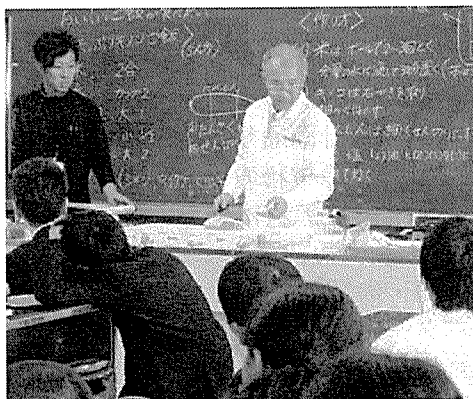
### ○ 食育活動の一環、東京・北区の中学校で特別講義—TOKYO X-Association

東京都のブランド豚「TOKYO X」の生産・流通販売業者でつくる「TOKYO X-Association」(植村光一郎会長、以下アソシエーション)は25日、東京・北区の区立稲付中学校の社会科授業でTOKYO Xに関する特別授業を開いた。アソシエーションが重視している活動の柱のひとつとしている食育活動の一環で、同校で毎年実施しているもの。同校では地産地消や食料自給率の大切さを学ぶため、給食用食材卸の(有)給食普及会を通じてTOKYO Xが給食で使用されている。

特にこの週は、切り落としとひき肉の給食メニューが3回あり、その地元で開発された食材としてTOKYO Xを題材に2年生(4クラス130人)の社会科の授業が組まれたもの。

当日は、外部講師として植村会長が、都市型農業の説明をはじめ、豚が豚肉に処理される過程を紹介。さらに、ブロック肉からパック肉への商品化実演も行われた。生徒たちは前日に実際に給食で食べていたこともあって熱心にメモを取り、またスライス実演では身を乗り出して見入っていた=写真。

植村会長によると、「地産地消や食料自給率の問題で、地元産の食材を給食で使用してメ



ニューを作ることが各地で行われている。都内の学校でもそれが普及しており、TOKYO Xも多い月では2千kg

以上の注文があり、その関心の高さに驚いている」とコメント。そのうえで「実際にブロック肉からスライスパック製造工程を見せることで食肉への関心や、食材に感謝してフェアトレードで購入するきっかけになってくれることと、日本の農業の活性化に繋がってくれることを願っている」と話している。

また、肉豚出荷についても、夏場は1週間当たり400頭規模に大きく落ち込んだものの、現在は900頭まで回復しているという。さらに生産者だけでなく、都でも2020年の東京オリンピックでの活用に向けて東京の特産品の生産振興に力を入れており、青梅畜産センター(東京都農林水産振興財団)での系統「トウキョウX」の更新など通じて官民挙げて年間2万頭の出荷体制を目指しているという。

### ○ 乳雄肥育牛でひらやまファーム、交雑牛で上田畜産が最優秀賞—ホクレン共励会

ホクレン農業協同組合連合会は11日、北海道畜産公社道東事業所十勝工場で第36回北海道枝肉共励会(乳用雄肥育牛および交雑牛の部)を開催した。乳用雄肥育牛64頭、交雑牛70頭(メス33頭、去勢37頭)の合計134頭が出品された。乳用雄肥育牛の部では、最優秀賞牛にひらやまファーム(更別村)の出品牛が選ばれ、JA全農ミートフーズ西日本が単価1,205円で購買した。交雑牛の部では上田畜産(新得町)の出品牛が選ばれ、中村畜産が単価1,860円で購買した。参加買受人は17社だった。

優秀1席以下の受賞者は次の通り。【乳用雄

肥育牛の部】▽優秀1席=今部直廣氏(きたみらい)、JA全農ミートフーズ東日本が単価1,100円で購買、▽優秀2席=大野淳氏(オホーツクはまなす)、近商ストアが単価1,130円で購買、▽優秀3席=新上肉用牛牧場(士幌町)、JA全農ミートフーズ中京支社が単価960円で購買。【交雑牛の部】▽優秀1席=グリーンサポート(上川中央)、JA全農ミートフーズ西日本が単価1,710円で購買、▽優秀2席=田中清隆氏(佐呂間町)、ホクレン販売本部が単価1,520円で購買、▽優秀3席=サラマ牛肥育センター、JA全農ミートフーズ東日本が単価1,600円で購買。